

平成 30 年 度

農事功績表彰者名簿

平成 30 年 11 月 14 日

公益社団法人

大日本農会

## 目 次

	受章者数	頁
<b>農 事 功 労 者</b>		
紫白綬有功章 (国内)	5名 .....	2
緑白綬有功章 (国内)	11名 .....	7
北海道・東北地域	10名 .....	10
関東地域	5名 .....	13
北陸地域	3名 .....	15
東海地域	6名 .....	16
近畿地域	4名 .....	18
中国四国地域	9名 .....	19
九州・沖縄地域	2名 .....	22
緑白綬有功章 (国外)	50名	
緑白綬有功章 小計	55名	
計	55名	
<b>農 業 改 良 普 及 功 労 者</b>		
緑白綬有功章 (国内)	4名 .....	23
<b>農 業 技 術 開 発 功 労 者</b>		
緑白綬有功章 (国内)	1名 .....	24
名誉賞状 (グループ) (国内)	1グループ	
<b>本 会 功 労 者</b>		
紫紅綬名誉章 (国内)	1名 .....	25
紫白綬有功章 (国内)	2名 .....	25
紅白綬有功章 (国内)	5名 .....	25
<b>合 計</b>		
	<b>69名</b>	
<b>(内訳)</b>		
紫紅綬名誉章	1名	
紫白綬有功章	7名	
緑白綬有功章	55名	
紅白綬有功章	5名	
名誉賞状 (グループ)	1グループ	

# 農 事 功 勞 者

## 紫白綬有功章（国内） 5名

氏 名	住 所	経営部門	表 彰 事 由
ま じま ゆう じ 真 嶋 雄 二 (76歳) 緑白綬有功章 平成20年度受章	栃木県 那須塩原市	畜産部門	<p>1 昭和37年に酪農経営を開始し、徐々に飼養規模の拡大を図るとともに、通年サイレージ方式の確立により、給与飼料の季節変動の解消や栄養収量の向上を図り、本方式は近県に広く普及が図られた。また、二本立て給与方式に基づくTMR飼料給与の導入により生乳の生産量の増加を図り、牛群検定による乳牛の改良にも注力した。</p> <p>平成元年以降は、フリーストール牛舎の建設を始め、堆肥製造の自動化、ミルクパラーの設置等を進め、多頭化に伴う労働力不足の解消や乳房炎など疾病の低減を図った。近年は家族経営を主体とする循環型酪農経営を目指し、自動搾乳システムを導入するなどICTを利用した高度な生産技術を展開している。</p> <p>また、国の研究機関との連携により通気吸引システムを核とした堆肥化熱エネルギー回収・利用システムの開発に取り組み、堆肥化時に生ずる臭気的大幅な軽減、温熱利用による飲み水の加温により冬場の乳量の維持など県内外で広く活用されるに至っている。</p> <p>2 県酪農組合理事や地域プロジェクトのリーダーとして、家族経営が地域を作るとの信念の下、土・牛・草のバランスの取れた持続的な酪農経営の発展を牽引してきた。特に、平成23年の東日本大震災東京電力原発事故による計画停電を乗り切り、除染対策にも取り組んだ。</p> <p>昭和63年から18年間、県農業士として後継者の育成に取り組み、その後も地方の名誉農業士会長として研修生や視察を積極的に受け入れ、若手農家の相談役として地域農業の発展に寄与している。</p> <p>また、以前から実施してきた共進会を畜産農家・関連企業、地域住民が一体となった農業祭に衣替えし、地域住民はもとより観光客も訪れる市の一大イベントに発展させるとともに、市の環境基本計画市民検討委員会の会長や地域環境対策連絡協議会の役員などを歴任し、地域全体の環境を守る取組にも尽力している。</p>

氏 名	住 所	経営部門	表 彰 事 由
わかや しげお 若谷 茂夫 (67歳) 緑白綬有功章 平成17年度受章	埼玉県 さいたま市	野菜部門 (法人)	<p>1 昭和44年に就農し、水稻・クワイの生産からコマツナの大型ビニールハウス栽培への転換を図った。その後、パイプハウスを増築しコマツナの拡大を図り、周年出荷を確立した。平成8年に掘り取り機を共同で購入したのを契機に、一時は減産したクワイの面積を再び拡大し、平成14年に有限会社若谷農園として法人化した。</p> <p>平成17年以降、借地による規模拡大を図り、県内の学校給食に提供するコマツナの生産をさらに拡大し、予冷库の拡大、真空播種機の導入等により品質の向上、省力化を進めている。</p> <p>平成26年からは、リスク分散としてタマネギを新規に導入するとともに、28年からはコマツナの連作障害対策としてスイートコーンを導入した。</p> <p>また、省力化対策として生分解マルチに取り組み、消費者の安全・安心志向に対応し、今年からは埼玉県の独自GAP規範であるS-GAPの実践農場の取組を進めている。</p> <p>2 昭和45年以降、転作作物としてのクワイの作付を拡大し、地域のくわい出荷組合の組合長として、収穫作業軽減のためのレンコン掘り取り機の活用や地域全体に広がっていた難防除病害である「ひぶくれ病」の防除等に積極的に取り組み、クワイの産地形成に貢献した。クワイに替わる作物を自主的に模索し、地域でいち早くコマツナ主体の生産に転換を図り、周年出荷を確立した。良質なコマツナの生産出荷は地域の模範となり、市の認定農業者連絡協議会や県法人協会の役員として、地域の先導的な役割を担い、その後は県内にコマツナの企業的な農家が育つなどコマツナの生産拡大・産地形成に寄与している。</p> <p>また、農業委員会会長として、借地による耕作放棄地の解消を積極的に進め、法人化後は地域の安定雇用に貢献してきたほか、県法人協会会長としても県内法人の意見を取りまとめ関係機関と連携し、県に新事業を提案するなど積極的に活動している。</p>

氏 名	住 所	経営部門	表 彰 事 由
<p>こばやし まさき 小林 正毅 (71歳) 緑白綬有功章 平成20年度受章</p>	<p>山梨県 南アルプス市</p>	<p>果樹部門</p>	<p>1 昭和39年にモモ中心の果樹経営に就農し、その後、オウトウの加温ハウス栽培を手がけ、栽培管理の高度化により高収入を得たが、さらなる収入の増加をねらって、モモの栽培面積の拡大とブドウを導入した。苗木ほ場の設置により、新品種の導入や計画的な改植を進め早期成園化による収益確保を図りつつ地域の遊休農地を借りながらさらに規模拡大を図った。</p> <p>就農した長男と協力して、平成24年からインターネットを活用した「観光さくらんぼ狩り」と果実の直接販売に着手した。これに伴い、食味の保証が求められたことから品種構成を変更する改植を実施し、粗収益を大幅に向上させた。</p> <p>2 開花期前後の微妙な温湿度管理技術を確立してハウスオウトウの結実安定を達成するとともに、小型バックホーによる土づくりを導入するなど地域全体の安定生産に貢献している。また、モモの低樹高化に取り組み、作業の省力化や安全確保を図り、女性や高齢者が働きやすい環境の確保や安定的な雇用確保に貢献している。</p> <p>収益性の向上をもたらした「観光さくらんぼ狩り」の取組は、地域全体に波及し、経済発展に寄与した。地域の遊休農地を積極的に借り入れ、ほ場を整備して規模を拡大する取組は、認定農業者制度における経営改善手法の参考にされ、認定農業者の大幅な増加に寄与した。</p> <p>地元農協の役員、県果樹園芸会の要職等を歴任し、多くの担い手の育成等により県の果樹農業の発展に尽力するとともに、全国果樹研究連合会モモ部会長として全国レベルでのモモ生産振興に貢献した。</p>

氏 名	住 所	経営部門	表 彰 事 由
み やけ さだ ゆき <b>三宅 貞行</b> (69歳) 緑白綬有功章 平成18年度受章	福岡県 筑紫野市	畜産部門 (法人)	<p>1 昭和44年に就農し、その後、乳用種を増頭しながら、徐々に交雑種を導入し飼養規模の拡大を図った。平成6年に安定した肥育経営のために黒毛和種への品種転換とともに、稲わらとビール粕の自家配合飼料を活用した飼養技術確立し良質牛肉生産基盤を強化した。規模拡大に合わせて、省力機械の導入とともに、手作りの省力機械を製作するなど創意工夫により経営改善を図ってきた。最近では平成14年に農産物加工部門の開始とともに開設した直売所において、米のもち加工品の販売により高い収益を上げているほか、堆肥の販売も行っており、地域の消費者との交流施設として大きな役割を担っている。また、肉用牛飼養管理技術の向上に精励し、平成23年に開催された九州管内系統和牛共励会で審査員満場一致で金賞を受賞するなどの好成績を納めている。</p> <p>2 BSE、偽装表示問題で発生した牛肉への消費者の不安を払拭するため、JAや行政機関に働きかけ、平成14年に県肉用牛生産者の会を設立し、初代会長として、枝肉共励会の開催による肥育技術の研鑽と向上を図り、「博多和牛」の福岡県ブランドとしての地位確立と知名度向上に貢献してきた。地域と共存・共栄する畜産経営を目指し、堆肥発酵舎を整備し、近隣農家に供給するとともに、直売所で販売し、環境と調和した畜産の理解促進に貢献している。近年は、農協理事を歴任し、直売所の開設に尽力し、地域の生産者と消費者を結ぶ重要な拠点としての発展に寄与したほか、地元の農業大学校生や肥育農家の子弟を研修生として受け入れ地域全体の活性化に貢献した。</p>

氏 名	住 所	経営部門	表 彰 事 由
うえ き なみ お 植 木 南 雄 (75歳) 緑白綬有功章 平成18年度受章	大分県 大分市	野菜部門 (法人)	<ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="906 483 1497 1189">           1 昭和36年にミカン経営に参画して就農し、その後、大葉とかいわれの本格栽培を開始した。昭和52年に大分市農協大葉部会を設立し、水耕栽培（M式）の導入や温泉熱利用による省エネルギー栽培を開始するなど様々な先進技術を導入し、大葉の生産拡大に貢献した。また、加工需要への対応に早くから着目し、大葉を利用した素麺、煎餅、ドレッシング等の商品化を行うなど6次産業化の取組を実践している。            平成4年に法人化し、経営の安定化を図り、ブロッコリースプラウトや、クウシンサイスプラウト等の新規品目の導入も積極的に進めた。            近年は、食の安全・安心の確保と生産性向上を図るため、生産工程管理の徹底を実践するとともに、かいわれ部門では我が国初のJGAP認証を取得し、大葉部門でも認証を取得した。         </li> <li data-bbox="906 1227 1497 1854">           2 昭和52年に大分市農協大葉部会を設立して以来、部会長として21年にわたって技術開発や品質の向上に尽力し、大葉の産地化と生産拡大に注力して西日本一の大葉産地に引き上げた。栽培面では、昭和63年に大葉の共同育苗施設を導入し、セル成型苗移植の導入による作業の効率化やLED、点滴灌水などの導入により低コスト化を進め部会員の所得向上を図るとともに、パック詰めの方業化を図り品質の均質化等による産地体制の整備に貢献した。また、昆虫フェロモンの利用による防除を普及させるなど環境にやさしい農業の取組拡大に貢献した。            また、近年は研修生を積極的に受け入れ、若手農業者の育成に貢献しているほか、平成13年からは海外技能実習生の受け入れを開始するなど国際的な人材育成にも貢献している。         </li> </ol>

## 緑白綬有功章（国内） 48名

（北海道・東北地域 11名）

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
あずま い 東井 はじめ 源 (67歳)	北海道 岩見沢市	水稲・果樹等 複合経営 (個人・法人)	<ol style="list-style-type: none"> <li>炭鉱閉山で過疎が進む中山間地域で離農農地を集積し、設立した法人で水稲作業協業化。家族経営は果樹の栽培管理に集中し、果樹の品目や販路等の多様化で経営の安定化を実現。</li> <li>地域初の複数戸法人設立、特産果樹振興で地域農業・コミュニティー維持、人材育成を牽引。他産業との連携で、ICTの活用による規模拡大に対応した農業生産基盤づくり等地域の活用化に尽力。</li> </ol>
たか はし 高橋 まもる 守 (66歳)	北海道 ニセコ町	酪農・乳製品 加工・販売経 営	<ol style="list-style-type: none"> <li>大規模酪農を目指し規模拡大を進め、乳牛改良による品質・生産性向上、受精卵移植による経営安定を推進。乳製品の加工・販売等の6次産業化により、高付加価値経営を実現。</li> <li>道指導農業士の認定を受ける以前から研修生を受け入れ、国内はもとより海外でも担い手の育成・確保に尽力。レストラン経営は地域の振興にPR・貢献。</li> </ol>
く どう のり お 工藤 憲男 (66歳)	青森県 平川市	稲・大豆作経 営	<ol style="list-style-type: none"> <li>地力の維持を技術の中心に据え、初期生育の確保による良質米の生産を実現。規模拡大とともに転作大豆に取り組み、無人ヘリによる地域ぐるみの防除により良品安定生産に尽力。</li> <li>特A米「青天の霹靂」に初期から取り組み、良食味・高品質栽培マニュアルの作成に寄与するなどブランド化に貢献。認定農業者協議会の幹事等を務め、担い手育成等地域農業の発展に貢献。</li> </ol>
え がわ さち お 江川 幸男 (69歳)	岩手県 遠野市	酪農・特用農 産物等複合経 営	<ol style="list-style-type: none"> <li>酪農を経営の柱としながら、原木キノコ、山菜の生産・販売、農家民宿やどぶろく製造・販売を組み合わせた経営の多角化により、山間地域におけるアグリビジネスモデルを実現。</li> <li>市と連携して「どぶろく特区」認定に尽力する等、地域資源を活かした多角的な活動により、地域のグリーンツーリズムやアグリビジネスを牽引し、地域の農林業の発展に貢献。</li> </ol>

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
たか はし あきら 高橋 明 (66歳)	岩手県 西和賀町	稲作・農産加工・園芸・観光複合経営 (法人)	1 水稲と花き（リンドウ、ユリ）複合経営を確立後、水稲の大規模化を図りつつ野菜や苗物生産、地域特産のワラビを利用した農産加工、観光農業を取り入れた複合経営の法人に発展。 2 地域を牽引して花き産地育成、特産ワラビの振興に貢献。大規模水稲に園芸作、農産加工販売、観光農園を加えた複合経営のモデルとして地域をリード。夫妻で地域の活性化に貢献。
たか はし い く こ 高橋 医久子 (64歳)			
やま むら き く お 山村 喜久夫 (68歳)	宮城県 栗原市	水耕野菜・稲作複合経営 (法人)	1 時代を先取りして地域農業を実践し、複合部門として安定収益確保と周年労働が可能な法人経営の大規模水耕野菜栽培を導入。担い手が減少する集落営農を法人化で維持。 2 地域を牽引する農業法人を設立し、中山間地に貴重な就労の場を提供。担い手の育成に長年携わり、視察受入や講演活動等に積極的に取り組み、地域農業の維持・発展に尽力。
なり た まこと 成田 誠 (72歳)	秋田県 鹿角市	稲作経営 (法人)	1 「淡雪こまち」の直播栽培に早くから取り組み、栽培管理の適正化による安定生産を実現するとともに、種子生産による作付拡大に貢献。イチゴ・菌床シイタケを導入し冬季の所得を確保。 2 直播栽培研究会を主宰し、「淡雪こまち」の地域における作付面積の拡大と産地づくりに貢献。農業士会長を務めるなど地域リーダーとして、地域農業の振興に貢献。
しば た ため ひで 柴田 為英 (67歳)	秋田県 湯沢市	稲・大豆作経営 (法人)	1 稲作・水田酪農複合経営から開始し、高い技術を習得するとともに農地制度を理解し経営基盤の強化を実現。転作大豆請負組合を法人化・株式会社化し農地集積による経営基盤をさらに強化。 2 法人化を契機に地域の農地集積に積極的に取り組むとともに、雇用を創出し地域経済の活性化に貢献。就農体験、食農教育等も取り入れ、地域農業の優良企業のロールモデルとしてイノベーションを実現。

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
さわかわ こういち 澤川 宏一 (72歳)	山形県 鶴岡市	果樹・稲作等 複合経営	1 果樹は新品目・新品種の導入で規模を拡大し、直売所出荷を主体にした高収益経営、水稲は良質米生産と農機具の共同化等による安定経営を実現し、果樹・水稲の複合経営を確立。 2 農産物直売所設立時から経営を主導し、加工・レストラン部門の導入により地域屈指の直売所に発展。県指導農業士等を務め、担い手育成と地域農業活性化に貢献。
のほりさか けんじ 登坂 賢治 (66歳)	山形県 川西町	農産・エダマ メ複合経営 (法人)	1 作業受託組織・法人を設立し共同営農体系を確立して、中山間地域のハンデを克服。高収益作物のエダマメに伝統食材の在来種「紅大豆」及びソバ栽培で農業所得の向上と地域振興を実現。 2 多年にわたり町の農業委員として土地集積、法人化、新規就農支援など地域農業振興に貢献。地域の伝統食材等を活用して地方への人の流れにつなげる先駆的な都市農村交流の仕組み作りに尽力。
よした しゅういち 吉田 修一 (63歳)	福島県 田村市	施設トマト・ 稲作等複合経営	1 トマト中心の複合経営を確立。ほ場整備事業を機に農地集積し、直接販売や農産品加工で経営の発展を実現。原発事故による営農中止後、いち早く営農を再開し、生産規模を事故前までに回復。 2 地域の先頭となり施設トマトの栽培技術を確立。担い手確保や人材育成に取り組み、地域農業の発展に貢献。震災・原発事故発生時から地域を牽引し、地域農業の再生・復興に尽力。

(関東地域 10名)

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
いしかわこうたろう 石川幸太郎 (69歳)	茨城県 常陸大宮市	露地枝物専作 経営	<ol style="list-style-type: none"><li>1 実需者との情報交換により、市場評価の高いハナモモ等少量多品目の生産を耕作放棄地等の活用により取り組み、中山間地域の高齢者向け経営モデルを地域に波及させた。</li><li>2 地元JAに設立した枝物部会会長として高齢者等未経験生産者の指導で雇用創出し、産地を牽引。農地中間管理事業で農地を集約化、耕作放棄地解消により、枝物の作付けを推進。</li></ol>
しのざきかずいち 篠崎和一 (68歳)	栃木県 宇都宮市	イチゴ専作経 営	<ol style="list-style-type: none"><li>1 連棟ハウスの導入、電照栽培、夜冷库・予冷库・選別作業場の整備により規模拡大と品質向上を実現。「とちおとめ」等の新品種や新技術導入によりイチゴ専作経営を実現。</li><li>2 県農業士として研修生を受入れ、就農へ結びつけ、担い手の確保・育成に貢献。直売所活動を通じた学校給食への食材提供や地域保全活動等、地域農業・農村の発展に貢献。</li></ol>
たかのれいこ 高野礼子 (68歳)	栃木県 大田原市	稲・麦・大豆 作経営 (法人)	<ol style="list-style-type: none"><li>1 早くから稲・麦・大豆作を経営の基軸に据え、大型農業機械、無人ヘリの活用等による効率的な水田作農業を実現。加工ニンジンの栽培に取り組み、雇用労働者の冬季の作業を確保。</li><li>2 水田への野菜作導入の先駆けとして、野菜の産地化に貢献。女性農業士、農業委員を務め、遊休農地の解消や女性の参画促進に貢献。</li></ol>
おおたけふみあき 大竹文明 (68歳)	群馬県 富岡市	タマネギ・ク ワ苗等複合経 営	<ol style="list-style-type: none"><li>1 繭価低迷で養蚕から機械化一貫体系のタマネギ生産中心に転換し、全国の実需者から評価の高いクワ苗生産とクワの葉を原材料としたやきもちなど農産加工で複合経営を展開。</li><li>2 JAタマネギ生産部長として機械化一貫体系を確立し、産地振興に貢献。良質のクワ苗生産で全国の養蚕に寄与。クワの葉が原材料の農産加工品で地元の製糸場の観光振興にも貢献。</li></ol>

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
はせがわくにひこ 長谷川邦彦 (72歳)	千葉県 栄町	稲作経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 水田作の規模拡大や紙マルチ導入の先駆者として減農薬栽培の確立に貢献。消費者との交流による産直販売や黒大豆の生産技術の向上により経営改善を実現。</li> <li>2 低コスト稲作の地域への普及と水田における黒大豆の導入促進に尽力。指導農業士や土地改良区理事長等を務め、担い手育成や後継者の育成に貢献。</li> </ol>
こでらまさあき 小寺正明 (59歳)	東京都 清瀬市	野菜作(露地・ 施設)経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 多品目露地野菜栽培からコカブとハウレンソウを中心とした高収益な野菜栽培へ転換。葉物専用の簡易ハウスを開発、雇用労力を活用し施設葉物中心の大規模野菜経営を実践。</li> <li>2 儲かる農業の手本として地域農業を牽引。独自に開発した栽培技術等のノウハウを公開し、地域の施設園芸研究会を立ち上げ、会長として地域の施設化、経営改善に貢献。</li> </ol>
きたみ のぶゆき 北見信幸 (68歳)	神奈川県 横浜市	養豚・野菜等 複合経営 (個人・法人)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 養豚一貫経営から農産物生産も加えた加工販売中心に移行し、養豚は原材料供給部門へと経営構造を転換。環境に配慮した豚糞処理により地域調和を目指し、家族内の役割分担も明確化した複合経営を実現。</li> <li>2 長く国内外から多数の研修生を受け入れ。市と連携し、遊休農地を体験農園とし、環境対策で得られた堆肥も活用して利用者を指導。地域の交流施設や小学校等で食育教室を開講。</li> </ol>
きたみ まちこ 北見満智子 (72歳)			
みそか まさいち 晦日正一 (82歳)	山梨県 甲州市	養豚経営 (法人)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 副業的農業から養豚業に転換。飼料会社との連携により栄養価の高い給与技術確立し、「ワイントン」の普及に尽力。加工肉の生産・販売にも手がけ高付加価値養豚経営を実現。</li> <li>2 「出荷協力会」の設立により、地域の養豚振興に貢献。「ワイントン」の精肉・加工肉の販売を通じ、ブランド化を進め、地産地消に貢献するとともに、耕畜連携の推進にも尽力。</li> </ol>

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
飯塚 芳幸 （69歳）	長野県 上田市	ブドウ専作経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 土づくり、品種特性に則した樹勢管理、きめ細かな新梢管理と房管理で高品質ブドウの安定生産を確立。消費者ニーズを先取りした多様な特性の品種導入で高価格販売を実現。</li> <li>2 県果樹研究会部会長等として、巨峰産地から欧州系や種なし、皮ごと食べられる品種への転換を促し、高接ぎ更新技術を先導し、県内の品種更新に貢献。担い手育成に貢献。</li> </ol>
青木 善明 （67歳）	静岡県 富士宮市	肉用鶏経営 （法人）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 就農直後に採卵からプロイラー生産に経営転換し、大規模経営を目標に法人化。独自の飼料購入ルートの確立によるコスト削減、直販部門の導入により全国屈指の独立系プロイラー経営に発展。</li> <li>2 県育種肉用鶏のブランド化や耕畜連携を推進し、地域農業の発展に貢献。マルシェ開催による高付加価値化や外国人研修生受け入れのための組織の設立に尽力。</li> </ol>

(北陸地域 5名)

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
ささき ことぶろう 佐々木 五三郎 (73歳)	新潟県 佐渡市	果樹作（リンゴ等）・果樹加工経営	1 リンゴわい化栽培導入による省力化・規模拡大と販路拡大を実現。ジュース・ジャムなどの加工に取り組み、開設した直売センターと宅配便で全量を直売する果樹経営を確立。 2 五三郎氏は、地域の果樹組合長等として、イベント開催等に取り組み、地域の活性化に貢献。清美氏は農業簿記の記帳活動や女性の経営参画を推進し、地域の経営改善に貢献。
わか つき すすむ 若月 進 (63歳)	新潟県 新潟市	酪農経営	1 機械化による徹底した省力化を一貫して推進。受精卵移植師として地域の和牛肥育牛の増頭に寄与するとともに、飼料用トウモロコシの栽培に取り組み、高い飼料自給率を実現。 2 他の農業者と連携し、自家製牛糞堆肥の活用による資源循環型農業の地域展開に貢献。県指導農業士会の活動に尽力し、研修生の受け入れや担い手育成の取組に貢献。
さいとう ただのぶ 齋藤 忠信 (78歳)	富山県 南砺市	タマネギ・水稻等複合経営 (法人)	1 集落営農組織の設立・法人化にリーダーシップを発揮。直播水稻と機械化一貫体系のタマネギ栽培で経営を多角化。タマネギは、確立したマニュアルの実行と緑肥等で高い単収を実現。 2 積雪地水田輪作でのタマネギ機械化一貫体系確立に貢献。大幅な省力・軽労化で経営体当たり栽培面積が拡大し、産地が急速に拡大。この功績で県農業振興賞優良指導者表彰受賞。
よね ばやし としえ 米林 利榮 (74歳)	石川県 金沢市	野菜作（伝統野菜中心）経営	1 「加賀太きゅうり」の育成・産地化により経営基盤を確立。県内に先駆けて「金時草」の施設栽培に取り組み、周年栽培技術体系を確立。完熟トマトの生産等で経営を多様化。 2 県農業士等として、伝統野菜の種の保存、生産振興、「加賀野菜」ブランドの確立に貢献。地域特産物マイスターとして研修受入等による若手育成、地域農業の振興に寄与。

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
まつた 松田 信也 (72歳)	福井県 大野市	稲・大麦・ソ バ作経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高性能機械の導入に合わせた規模拡大により水稲・輪ギク生産から大規模稲作経営への転換を実現。水稲・大麦・ソバの2年3作体系を確立し経営の安定化を実現。</li> <li>2 大麦・ソバの広域作業受託体系を確立し、地域特産物としてのブランド化・高品質化に貢献。大規模稲作経営の先駆者として、後進の複数育成に尽力。</li> </ol>

(東海地域 3名)

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
とちもと ひろあき 枋本 弘明 (65歳)	岐阜県 下呂市	野菜作(夏秋 トマト)・菌 床シイタケ作 経営	1 地域に先駆けて雨除け夏秋トマト栽培と菌床シイタケ導入による周年作業体系を確立。トマト観光農園や加工品販売で6次産業化を実践し先駆的な農業経営を実践。 2 地域の出荷組合役員として地域の夏秋トマト産地強化に尽力。県指導農業士連絡協議会会長等として研修生受入や新規就農者の育成等県の農業振興に貢献。
おがわ かきち 小川 嘉吉 (65歳)	愛知県 扶桑町	露地野菜・農 産複合経営 (法人)	1 早期から大規模借地経営を展開。農作業機械化体系、雇用体制、契約取引を整備。緑肥を輪作に加えた農薬・化学肥料に頼らない栽培を實踐。大規模農産・露地野菜複合経営を確立。 2 地域内遊休農地を優良農地に再生して活用。研修生を多数受入れ、従業員への独立も積極支援。県農業経営士協会会長として行政や若手農業者への提言・助言で、地域農業の発展に貢献。
みなみ で としみつ 南出 紀光 (61歳)	三重県 伊賀市	農産・施設野 菜複合経営	1 水稲等の兼業経営からWCS・酒米等の専業経営に転換。その後、家族経営協定を締結し、役割分担で施設イチゴ、アスパラガス等の野菜作も導入し、周年出荷・周年雇用を実現。 2 両名分担し、指導農業士として組織活動への積極的な参加による就農者育成、耕畜連携の推進、農地集積、男女共同参画等への取り組みや情報の発信等で地域活動の活性化に貢献。
みなみ で かずみ 南出 和美 (56歳)			

(近畿地域 6名)

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
くにえだ たけお 國枝 武夫 (68歳)	滋賀県 守山市	切り花バラ・ バラ苗生産専 作経営 (個人・法人)	1 先進的設備の施設と少量土壌培地耕の導入等によりバラ栽培の省力化と大規模化を実現。流通用容器で特許を取得。切花生産と種苗販売を分けて経営を安定化させる方向性を提示。 2 少量土壌培地耕を県内バラ生産者に紹介し低コスト高品質の産地育成に貢献。県内外から研修生を受け入れ、継続した人材育成に尽力。多数の役職を務め、地域農業の活性化に貢献。
たむら たかひろ 田村 隆弘 (67歳)	京都府 亀岡市	聖護院カブ専 作経営	1 地域に先駆けて聖護院カブ栽培へ転換し、土作りや間引き作業、肥培管理等により高品質・安定生産を確立。カブ用に改良した洗浄機で調製作業を省力化し栽培面積を拡大。 2 高い栽培技術と省力化技術の地域への普及により聖護院カブ産地を確立、市場への安定供給により産地の信頼度向上。府指導農業士等として担い手育成、地域農業振興に貢献。
なかむら ひろみち 中村 弘道 (65歳)	大阪府 大阪狭山市	ブドウ専作経 営	1 ブドウ栽培の施設化、直売への移行、自身の登録品種「キングデラ」等の開発と新品種導入を進め、環境配慮型等の新しい栽培技術の導入、直売所開設により経営を安定化。 2 ブドウの施設栽培・直売経営に先駆的に取り組み、府「農の匠」副会長等として、地域の農業者への技術普及・農業振興に貢献。食農教育や後継者育成、府農業のPRに尽力。
ながお やすひろ 長尾 安博 (64歳)	兵庫県 丹波市	鉢物・花壇用 苗専作経営 (法人)	1 栄養繁殖品目主体の鉢物・花壇苗生産にセル成型苗活用による大量生産システムを確立。種苗業者等との契約生産で経営を安定化。わい化剤によるポットハボタン栽培技術を開発。 2 県花卉協会鉢物部会発足時から役員として鉢物・花壇用苗の生産体制確立に貢献。「予約・相対販売」をネット販売組織に提案し、販売単価安定化で地域の生産者の経営安定化に貢献。

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
もり うま とし お 森 馬 敏 夫 (74歳)	奈良県 天理市	施設イチゴ専 作経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>イチゴ栽培に先駆的に取り組み、出荷の前進のための施設栽培、新品種や夜冷短日処理技術等を導入、県のイチゴ生産を牽引。昌子氏は、簿記記帳に組み、経営改善に貢献。</li> <li>敏夫氏は、イチゴ部会長等として地域のイチゴの高品質化、共販・共計体制構築、生産基盤整備に貢献。昌子氏は、家族経営協定の締結や研修生受け入れ等地域の担い手育成に貢献。</li> </ol>
もり うま まさ こ 森 馬 昌 子 (72歳)			
やま もと しげる 山 本 茂 (67歳)	和歌山県 みなべ町	ウメ専作経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>農地造成によるウメ増産、受粉樹導入等による結実向上、せん定と土づくりで樹勢を維持し、「南高」の高位安定生産を実現。新商品開発、長期契約取引により経営の安定化を実現。</li> <li>地区内の農地造成事業の推進、ウメ樹勢の維持・強化対策、新品種普及に尽力。地区出荷会会長として完熟梅の有利販売、「露茜」の産地化、新たな特産品づくりを先導。</li> </ol>

(中国四国地域 4名)

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
ふじ わら かつ み 藤原 克己 (70歳)	岡山県 赤磐市	果樹作(多品 目・観光農 園)経営	1 「ピオーネ」の短梢栽培とアーチ型ハウス導 入による省力的栽培等により果樹の高品質安 定生産を実現。多品目栽培, 自営直売所, 観 光農園の開設で、効率的な経営を实践。 2 県農業経営者クラブ会長等として先進農業者 のネットワークを構築し、後輩農家・新規就 農者の育成に尽力。ブドウ施設栽培の先駆者 として地域農家への技術改善と普及に貢献。
の ぐち よし ひさ 野口 芳久 (75歳)	徳島県 徳島市	施設トマト専 作経営	1 地域に先駆けトマトのハウス栽培、養液栽培、 優秀品種の完熟トマト栽培の導入を進め、高 品質・安定生産を確立。ハウス内環境測定シ ステム導入により低コスト化を実現。 2 JAトマト部会長等として、施設栽培の導入・ 普及により、施設栽培トマトの産地づくりに 貢献。県名誉指導農業士等として担い手育成 に尽力。県内の養液栽培の普及に貢献。
まさ だ しげ よし 正田 茂義 (71歳)	香川県 三豊市	採種タマネギ 専作経営	1 種苗会社からタマネギのF <sub>1</sub> 品種の採種技術の 習得、雇用の導入・規模拡大により経営を改 善。防除の省力化、種子の収穫・乾燥技術の 改善により、優良種子の安定生産を確立。 2 採種タマネギの優良種子の安定生産と経営確 立を図り、採種タマネギ組合長として産地育 成に貢献。県農業士会会長等として地域・県 域の農業振興や担い手の育成に貢献。
う つの みや ひで なり 宇都宮秀成 (75歳)	愛媛県 西予市	酪農経営 (法人)	1 先進的飼養管理技術をいち早く導入し、低コ スト・省力化・資源循環型酪農を実現。県産 牛乳「夕しほり」のブランド化など高品質生 乳生産に貢献。 2 地域の肉用牛農家との連携による優良素牛産 地の維持・発展に寄与。担い手の雇用・育成 を通じ地域経済の発展に尽力するとともに、 食農教育への積極参加を促し地域農業の活性 化に貢献。

(九州・沖縄地域 9名)

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
くらなり なおえ 倉成 直江 (70歳)	福岡県 北九州市	稲・麦作経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 就農後、作付規模の拡大に合わせ大麦の種子生産を開始し、徹底した肥培管理等により優良種子の生産を実現。さらに水稻種子の生産や麦原種生産にも取り組み、経営を安定化。</li> <li>2 女性農業者として社会や経営に積極的に参画し優良採種農家として採種組合の育成に貢献。指導農業士として農大生の研修受け入れや後継者の育成にも尽力するほか地産地消も推進。</li> </ol>
きたはら やすあき 北原 靖章 (65歳)	佐賀県 江北町	農産・果樹複 合経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 排水対策と裸麦の導入による水稻との労働分散等で米麦大豆の土地利用型農業を確立。耕種的防除を駆使した有機JAS認証米、J-GAP認証のキウイフルーツ導入で複合農業を確立。</li> <li>2 地域の農地集積と交換分合を推進し、稲麦大豆の栽培と経営の技術の向上、土地利用型大規模経営の担い手育成、後継者確保にも貢献。保護司として青少年育成で地域社会にも貢献。</li> </ol>
うしろだ かつよし 後田 勝好 (68歳)	長崎県 諫早市	切花カーネー ション作経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 独自のカーネーション仕立て法により種苗費の削減と収量・品質向上に貢献。地元メーカーと養液土耕システムを開発し、大幅な省力化で大規模カーネーション作経営を実現。</li> <li>2 地元JAカーネーション部会長等を務め、市場に対応した集出荷体系を確立し、県オリジナル品種育成にも貢献。担い手育成や、農業委員等の活動で地域農業と農村の活性化にも貢献。</li> </ol>
おがた しずお 緒方 鎮雄 (79歳)	熊本県 御船町	切花専作経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 有機物の投入、太陽熱土壤消毒、噴霧冷房等により低コスト・高品質なバラ栽培を実践。バラの輸入増に伴いトルコギキョウ等へ転換し、「日中加温・夜間低温管理」等による低コスト栽培を実現。</li> <li>2 地域の農業経営改善同友会、花き振興会の会長等歴任。地域の農業者に対する栽培指導等により県農業コンクールで地域貢献賞受賞。指導農業士として多数の研修生を受け入れ。</li> </ol>

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
たけはら けんいち 竹原 憲一 (72歳)	熊本県 阿蘇市	酪農・乳製品 加工・販売経 営 (法人)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 飼養管理体系の改善による規模拡大を図るとともに、後継牛自家育成により泌乳能力の改良を実現。観光牧場を開園し、消費者との交流に尽力。</li> <li>2 先進施設の導入による規模拡大や乳牛改良を推進し、地域の酪農業の経営安定に貢献。地域の酪農団体を一本化し、組織基盤の強化に寄与。</li> </ol>
おち ちはる き 越智 春樹 (65歳)	大分県 杵築市	カンキツ専作 経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基本技術の忠実な実行によりハウスミカンの高単収・高品質化を実現。露地ミカンの隔年交互結実法、施設デコポン、ヒートポンプ等の導入で地域の経営モデルを確立。</li> <li>2 地域のハウスみかん部会長等を務め、市場の要望に応じた高品質果実の生産等、産地づくりに貢献。作付品目転換等の燃油高騰対策、施設デコポンの普及、担い手育成に貢献。</li> </ol>
いしほし としみつ 飯干 敏光 (71歳)	宮崎県 高千穂町	茶業経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 茶栽培の機械化に積極的に取り組み、収穫作業のみならず防除作業等省力化の実現により近隣農家の経営継続を支援。JAから茶の製造を委託され地域の茶業の担い手として活躍。</li> <li>2 機械化の進みにくい山間地域での茶業経営における機械化・省力化を強引に牽引。茶工場の管理委託を受け、良品質な加工製造を維持し、全国一の釜炒り茶産地基盤の維持に貢献。</li> </ol>
さわ やま いわしげ 澤山 岩重 (72歳)	鹿児島県 指宿市	施設野菜作 (オクラ・ト マト) 経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オクラ、トマトの施設と露地を組み合わせた年間作付体系を確立。氏を中心にJAオクラ部会で出荷・選別の分業化、IPM技術の導入等環境保全型農業に取り組み、安心・安全なオクラ生産を実現。</li> <li>2 JAオクラ生産部会長等として担い手育成に努め、オクラ産地形成に貢献。県指導農業士等として、新規就農者の早期定着、後継者育成、地域農業の振興に尽力。</li> </ol>

氏 名	住 所	経営の特徴	表 彰 事 由
たまき 玉城 ただお 忠男 (74歳)	沖縄県 東村	果樹作経営	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 加工原料用パイナップルで規模拡大、優良種苗選抜で商品化率向上を図り所得向上を実現。施設を導入し、高品質な生食用栽培技術を確立。新品種のブランド化を実現。</li> <li>2 県指導農業士等として、独自に選抜したパイナップル種苗のJA種苗増殖事業への提供、栽培技術の地域還元、タンカンの防風・防鳥栽培の普及等地域農業の発展に貢献。</li> </ol>

## 緑白綬有功章（国外） 2名

（北米・南加支会 2名）

氏名	住所	経営の特徴	表彰事由
とうめ さいお 当銘 貞夫 (77歳)	Chino Hills, CA, USA	造園・庭園業	1941年生まれ。グレンデール市立大学卒業、カリフォルニア州立大学ロザンゼルス校3年次修了。氏は、渡米後まもなくガーデニングを始め、その後、造園業・庭園業者として長年にわたり地域の美化に貢献した。 この間、沖縄の民間大使や琉球新報の通信員を務め、米国と日本、主に沖縄との橋渡しの役割としても貢献している。
なか がわ かつ しる 中川 勝城 (45歳)	Hamner Ave, Ontario, CA, USA	もやし製造業	1973年生まれ。近畿大学理工学部卒業、Pacific Lutheran University (MBA) 取得。 氏は、高橋直二氏が1965年に「高橋萌店」として創業し、1979年に設立した「Fuji Natural Foods, Inc」の4代目社長として、創意工夫を重ね消費者に喜ばれるもやしの生産・販売に努め、北米一の販売会社に発展させた。 地域の老人ホームや日本学校、栃木県人会等にもやしを無償で提供しているほか、日本料理を広める寿司シェフ養成学校のイベントの際に、かいわれを提供するなど日本人会の活動及び日米交流にも貢献している。

## 農業改良普及功労者

(一般社団法人 全国農業改良普及支援協会推薦)

### 緑白綬有功章 (国内) 4名

氏名	住所	表彰事由
わたなべ きくお 渡辺 菊男 (71歳)	栃木県 日光市	長年にわたり、野菜の改良普及員・専門技術員として、県イチゴ生産技術の改良や全国一のイチゴ産地の発展に貢献。また、平成16年から2年間、全国農業改良普及職員協議会の会長を務め、全国組織を取りまとめ、新たな普及事業の構築に尽力された。退職後は、農協の技術顧問として、これまで培ったイチゴの栽培技術指導による農家育成や農協営農指導員の育成指導に尽力。
たけの うちさだ お 竹之内 定雄 (71歳)	埼玉県 日高市	初任地の地方農業改良普及所を振り出しに、経営普及課の専門技術員、農業改良普及センター所長、農業経営課長及び県農業大学校長となる退職するまでの間、主に普及一筋に取り組み、地域特産物の生産振興や若手普及指導員の育成による、層の厚い普及組織の育成に貢献。退職後は、全国農業改良普及支援協会の普及参事、普及の全国研究大会の審査委員を務めるなど、現在も全国の普及指導員の育成に当たっている。
はやし かなえ 林 銆 (73歳)	愛知県 豊田市	花き担当普及員としてシンビジウムの全国一の産地育成に尽力。普及指導活動の専門技術員として普及指導計画の理論化と他県に先駆けた第三者評価を導入、普及の「機能」と「役割」の明確化等普及理論を構築し、農水省の新任専技研修の講師として指導。退職後も普及指導員資格試験委員等普及事業の支援に尽力するとともに、地元農協に特産部会を立ち上げ、部会長として中山間地域農業の振興と地域の活性化に貢献している。
よし の うち まさ ゆき 芳之内 正幸 (71歳)	愛媛県 松山市	在職時は、専門技術員及び普及主務課長、試験場長を歴任し、青年農業者等多様な担い手確保育成や普及指導体制の強化に尽力。退職後は、愛媛大学農学部の特任教授、アカデミックアドバイザーとして、大学と県行政との橋渡し役を担い、農業・農村の活性化に貢献できる人材の育成に尽力するとともに、自らも地域の園芸組合長として荒廃農地の解消再生等に取り組んでいる。

## 農業技術開発功労者

(公益社団法人 農林水産・食品産業技術振興協会推薦)

### 緑白綬有功章 (国内) 1名

氏名	住所	表彰事由
----	----	------

いしはら よしゆき  
石原 良行  
(60歳)

栃木県  
宇都宮市

食味が良く果実の大きい促成栽培用イチゴ品種「とちおとめ」を育成し、栃木県はもとより全国一位の主力品種に成長させた。また、トマト養液栽培における環境負荷軽減技術として有機物培地を用いた排水を出さない養液栽培技術を開発し、農家経営の向上に大きく貢献した。

元栃木県農業試験場次長兼  
いちご研究所長

平成23年度 (第67回) 農業技術  
功労者表彰受賞

### 名誉賞状 (グループ) (国内) 1団体

氏名	住所	表彰事由
----	----	------

ふくかえんしゅびょう  
福花園種苗  
かぶしきがいしゃ  
株式会社

愛知県  
名古屋市

フラワーアレンジメントの素材として流通しているスターチス・シネンシスについて、低温遭遇期間が短くても開花する系統を選抜し、「キノシリーズ」を育成した。その結果、周年定植・周年切り花生産が実現し、苗生産量が飛躍的に増大したことにより、ドライフラワーやハーバリウムなど切り花以外の需要も喚起して市場の拡大に貢献した。

平成27年度 (第16回) 民間部門  
農林水産研究開発功績者表彰受賞  
(農林水産省農林水産技術会議会長賞)

代表取締役社長

よしだ ゆたか  
吉田 豊  
(72歳)

営業部長

むらおか たかのり  
村岡 孝徳  
(49歳)

生産技術グループ長

ふじい たかはる  
藤井 崇治  
(41歳)

## 本 会 功 労 者

### 紫紅綬名誉章（国内） 1名

氏 名	住 所	表 彰 事 由
にし お とし ひこ 西尾 敏彦 (87歳)	埼玉県 鴻巣市	本会に対する功績特に顕著なるを認め頭書の名誉章を贈りその 功労を表彰（業務活動推進）

### 紫白綬有功章（国内） 2名

氏 名	住 所	表 彰 事 由
かい ぬま けい じ 貝沼 圭二 (82歳)	茨城県 つくば市	本会に対する功績特に顕著なるを認め頭書の有功章を贈りその 功労を表彰（業務活動推進）
き だ しげ き 木田 滋樹 (77歳)	東京都 杉並区	本会に対する功績特に顕著なるを認め頭書の有功章を贈りその 功労を表彰（業務活動推進）

### 紅白綬有功章（国内） 5名

氏 名	住 所	表 彰 事 由
いな ば ただ おき 稲葉 忠興 (77歳)	茨城県 牛久市	本会に対する功績顕著なるを認め頭書の有功章を贈りその功 労を表彰（業務活動推進）
さ さ き よし ゆき 佐々木 義之 (76歳)	滋賀県 大津市	本会に対する功績顕著なるを認め頭書の有功章を贈りその功 労を表彰（業務活動推進）
よし ひら まさ き 吉村 正機 (76歳)	神奈川県 川崎市	本会に対する功績顕著なるを認め頭書の有功章を贈りその功 労を表彰（業務活動推進）
のぶ くに たか ふみ 信國 卓史 (74歳)	神奈川県 鎌倉市	本会に対する功績顕著なるを認め頭書の有功章を贈りその功 労を表彰（業務活動推進）
よこ うち くに お 横内 圀生 (74歳)	茨城県 取手市	本会に対する功績顕著なるを認め頭書の有功章を贈りその功 労を表彰（業務及び支会活動推進）

## 農事功労者経営類型別一覧

区分	部門	都道府県	市町村	氏名	経営の特徴	掲載頁
紫白綬	畜産	栃木県	那須塩原市	眞嶋 雄二	酪農単一経営	2
紫白綬	野菜	埼玉県	さいたま市	若谷 茂夫	コマツナ・クワイ複合経営 (法人)	3
紫白綬	果樹	山梨県	南アルプス市	小林 正毅	モモ・ブドウ・オウトウ作 複合経営	4
紫白綬	畜産	福岡県	筑紫野市	三宅 貞行	肉用牛肥育・普通作複合経営 (法人)	5
紫白綬	野菜	大分県	大分市	植木 南雄	施設大葉専作経営 (法人)	6
緑白綬	農産・特産	青森県	平川市	工藤 憲男	稲・大豆作経営	7
緑白綬	農産・特産	秋田県	鹿角市	成田 誠	稲作経営 (法人)	8
緑白綬	農産・特産	秋田県	湯沢市	柴田 為英	稲・大豆作経営 (法人)	8
緑白綬	農産・特産	栃木県	大田原市	高野 礼子	稲・麦・大豆作経営 (法人)	10
緑白綬	農産・特産	千葉県	栄町	長谷川 邦彦	稲作経営	11
緑白綬	農産・特産	福井県	大野市	松田 信也	稲・大麦・ソバ作経営	14
緑白綬	農産・特産	福岡県	北九州市	倉成 直江	稲・麦作経営	19
緑白綬	農産・特産	宮崎県	高千穂町	飯干 敏光	茶業経営	20
緑白綬	野菜	栃木県	宇都宮市	篠崎 和一	イチゴ専作経営	10
緑白綬	野菜	東京都	清瀬市	小寺 正明	野菜作 (露地・施設) 複合 経営	11
緑白綬	野菜	石川県	金沢市	米林 利榮	野菜作 (伝統野菜苗中心) 経営	13
緑白綬	野菜	岐阜県	下呂市	朽本 弘明	野菜作 (夏秋トマト)・菌床シイ タケ作経営	15
緑白綬	野菜	京都府	亀岡市	田村 隆弘	聖護院カブ専作経営	16
緑白綬	野菜	奈良県	天理市	森馬 敏夫・昌子	施設イチゴ専作経営	17
緑白綬	野菜	徳島県	徳島市	野口 芳久	施設トマト専作経営	18
緑白綬	野菜	香川県	三豊市	正田 茂義	採種タマネギ専作経営	18
緑白綬	野菜	鹿児島県	指宿市	澤山 岩重	施設野菜作 (オクラ・トマト) 経営	20
緑白綬	果樹	長野県	上田市	飯塚 芳幸	ブドウ専作経営	12
緑白綬	果樹	新潟県	佐渡市	佐々木 五三郎・清美	果樹作 (リンゴ等)・果樹 加工経営	13
緑白綬	果樹	大阪府	大阪狭山市	中村 弘道	ブドウ専作経営	16
緑白綬	果樹	和歌山県	みなべ町	山本 茂	ウメ専作経営	17
緑白綬	果樹	岡山県	赤磐市	藤原 克己	果樹作 (多品目・観光農園) 経営	18
緑白綬	果樹	大分県	杵築市	越智 春樹	カンキツ専作経営	20
緑白綬	果樹	沖縄県	東村	玉城 忠男	果樹作経営	21

区分	部門	都道府県	市町村	氏名	経営の特徴	掲載頁
緑白綬	花き	茨城県	常陸大宮市	石川 幸太郎	露地枝物専作経営	10
緑白綬	花き	滋賀県	守山市	國枝 武夫	切り花バラ・バラ苗生産専作経営(個人・法人)	16
緑白綬	花き	兵庫県	丹波市	長尾 安博	鉢物・花壇用苗専作経営(法人)	16
緑白綬	花き	長崎県	諫早市	後田 勝好	切花(カーネーション・草花)作経営	19
緑白綬	花き	熊本県	御船町	緒方 鎮雄	切花専作経営	19
緑白綬	畜産	北海道	ニセコ町	高橋 守	酪農・乳製品加工・販売経営	7
緑白綬	畜産	山梨県	甲州市	晦日 正一	養豚経営(法人)	11
緑白綬	畜産	静岡県	富士宮市	青木 善明	肉用鶏経営(法人)	12
緑白綬	畜産	新潟県	新潟市	若月 進	酪農経営	13
緑白綬	畜産	愛媛県	西予市	宇都宮 秀成	酪農経営(法人)	18
緑白綬	畜産	熊本県	阿蘇市	竹原 憲一	酪農・乳製品・加工・販売経営(法人)	20
緑白綬	複合	北海道	岩見沢市	東井 源	水稲・果樹等複合経営(個人・法人)	7
緑白綬	複合	岩手県	遠野市	江川 幸男	酪農・特用農産物等複合経営	7
緑白綬	複合	岩手県	西和賀町	高橋 明・医久子	稲作・農産加工・園芸・観光複合経営(法人)	8
緑白綬	複合	宮城県	栗原市	山村 喜久夫	水耕野菜・稲作複合経営(法人)	8
緑白綬	複合	山形県	鶴岡市	澤川宏一・良子	果樹・稲作複合経営	9
緑白綬	複合	山形県	川西町	登坂 賢治	農産・エダマメ複合経営(法人)	9
緑白綬	複合	福島県	田村市	吉田 修一	施設トマト・稲作等複合経営	9
緑白綬	複合	群馬県	富岡市	大竹 文明	タマネギ・クワ苗等複合経営	10
緑白綬	複合	神奈川県	横浜市	北見 信幸・満智子	養豚・野菜等複合経営(個人・法人)	11
緑白綬	複合	富山県	南砺市	齋藤 忠信	タマネギ・水稲等複合経営(法人)	13
緑白綬	複合	愛知県	扶桑町	小川 嘉吉	露地野菜・農産複合経営(法人)	15
緑白綬	複合	三重県	伊賀市	南出 紀光・和美	農産・施設野菜複合経営	15
緑白綬	複合	佐賀県	江北町	北原 靖章	農産・果樹複合経営	19

公益社団法人 大日本農会

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目9番13号

三会堂ビル7階

電話 03(3584)6739番

FAX 03(3584)0573番

<http://www.dainihon-noukai.jp/>

E-mail: [noukai@dainihon-noukai.jp](mailto:noukai@dainihon-noukai.jp)